

■ 主な話題と要点まとめ

1. 名古屋市からの視察（片野上小）

- 名古屋市の高梁小学校の校長が、いじめ防止の観点でPBSの取り組みを視察。
 - 片野上小は「いじめ防止目的」でPBSを導入したわけではないが、実践が参考になる可能性あり。
 - 国内ではPBSによるいじめ件数減少の研究は少ないが、海外（特に米国）では事例あり。
-

2. PBSといじめ防止の関連

- 倉敷市では人権教育の枠組みでPBSを活用したパンフレットが作成されている。
 - 大久保健一先生が「いじめ予防に特化したPBSプログラム」を関西圏で試行中。
 - 加害行動の強化要因（注目獲得など）に応じた対応が重要。
-

3. Pコンの活動と振り返り

- 2年目の成果として、学校が自走し始めたことが喜ばれている。
 - Pコンが主導しなくとも、先生方が自発的にPBSを実践するようになってきた。
 - 学校ごとのペースに合わせた支援が重要。焦らず、待つ力（鈍感力）も必要。
-

4. Pコンの兼務と課題

- 担任を持ちながらのPコン活動は時間調整が難しく、負担が大きい。
 - 巡回とPBS支援の住み分けが曖昧になることも。
 - 担任の有無や校内理解の差が活動のしやすさに影響。
-

5. 新人Pコンへのアドバイス

- 「いい人と組ませてもらうこと」が最も重要。
 - ABA（応用行動分析）の理解があるとPBSの導入がスムーズ。
 - 各校の文化や先生のタイプを見極める「洞察力」や「仲良くなる力」が大切。
 - チームの一員として関わる姿勢が信頼構築につながる。
-

6. PBSの理解と研修の工夫

- 行動の原理（ABC：Antecedent, Behavior, Consequence）の説明が重要。
 - 「褒める」だけでなく、行動が増えるかどうかで支援の効果を判断する視点が必要。
 - 特に中学校では褒めることへの抵抗があるため、丁寧な説明が求められる。
-

7. 今後のモデル事業と人材確保

- 次年度以降も特別支援学校の先生がPコンを担う方向。
 - 将来的には退職校長を「学校訪問指導員」としてPBS研修に活用する構想あり。
 - 実践校の数や地域によってPコンの配置や負担が変わるため、調整が必要。
-

◆ まとめのポイント

- Pコンの役割は「伴走者」：学校の文化や先生方のペースに寄り添うことが大切。
- いじめ防止との関連性：PBSは安心・安全な学校づくりに貢献するが、直接的な効果は研究途上。
- 新人支援：環境・人間関係・研修内容の工夫が鍵。
- 今後の展望：特別支援学校中心の体制から、小中学校への移行も視野に。